



注意

本冊子は、ゲームのエンディングを迎えるまでは内容を見てはいけません。

マーダーミステリー
MURDER MYSTERY 金田一事件簿
少年の事件簿

宝石盜難殺人事件

エンディングシナリオ

エンディング

右記、二次元コードを読み込むことで、同じ内容を確認することができます。

<https://mdm-kindaichi/p401-hosekitonan-end.com>



真相で回答したことの判定を行ってください。

ニュアンスが合っていれば正解として判定して構いません。

- ①《主催者》竜崎英雄を殺害した犯人 「秘書／狐塚美咲」
- ②「シルクダイヤ」を盗んだ犯人 「美雪（怪盗刑事が変装している）」
- ③「シルクダイヤ」の在処 「ビュッフェの寸胴鍋の中」

その結果をもとに A から順に読み進めてください。

※キャラクターのセリフは担当プレイヤーが読み上げる。

地の文章や NPC に関してはそれぞれで配役して読み上げる。

A

- ◆ ①が正解 → B へ
- ◆ ①が不正解 → G へ

- 金田一 「犯人はあんただ、秘書の狐塚美咲!」
- 狐塚 「そんな……社長が倒れた時には、私は壇上にいてサポートをしておりました。毒は即効性の高いものだと聞いております……ワインには触れていませんし、社長にも近づいていない!」
- 金田一 「おそらく犯人は主催者と共に謀して自作自演で事件を起こしたんだろう。きっと、主催者が倒れている隙に宝石の行方をくらませ、盗難事件として扱う。そうすることで多額の保険金を受け取り、宝石自体も手元に残せる、そう踏んだのではないか」
- 狐塚 「なんの話をしているのです?」
- 金田一 「そして実行に移したが、犯人の目的は違った。自作自演で倒れた振りをした主催者に近寄り、本当の毒を摂取させる。そうすることで倒れた段階では遠く離れていたので殺害はできなかった、と主張できる。そう、今のあんたみたいにね!」
- 狐塚 「その推理は分かりかねますが、確かに暗転中に私は社長の傍に移動しました。ですが、それは証拠にはなりませんよね? 証拠はあるのですか!」
- 金田一 「ああ、ここにあるよ。暗転中に佐木が撮影していた映像だ」
- 狐塚 「……な、何も映っていないじゃないですか!」
- 金田一 「そう、映像は残っていない……けど、ほら、声だけは録音されているんだよ、よく聞いておきなって」

金田一 「この『なんじや、これは。聞いておらんぞ!』ってのは、
主催者の声だよな。
ワインに即効性の毒が入っていたんだったら、
ワインを飲んでグラスを割って倒れた時点で即死のはず。
けど、ここに主催者の声がちゃんと入ってるんだよね、
これはどう説明するんだい?」

狐塚 「そんなの私にわかるわけが.....」

金田一 「この声が聞こえた時点では死んでいなかった。
その後、毒殺されたんだ。で、これが照明点灯時の位置関係」

狐塚 「.....」

金田一 「この段階で、主催者に近づいて毒を飲むことができた人物は
誰だと思う.....?」

狐塚 「.....」

金田一 「つまり、この事件を起こしたのは、
あんたしかいないんだよ狐塚さん!」

全員 「.....」

実際は数秒だろうが永遠にも思える沈黙が流れた。

狐塚 「綿密な調査が入ればわかることよね.....。
そうよ、あいつは私が殺したの」

金田一 「.....」

狐塚 「あいつは私の親に違法な貸し付けをして一家心中に追い込んだの！許せなかった……。私はなんとか一命をとりとめ、養子として名字が変わって、過去を忘れようと必死に生きてきた。けどダメだった。優しい両親との幸せな日々……それが脆くも崩れ去る悪夢を毎晩見るの。この悪夢を消すためには、憎き竜崎を殺害するしか方法は無い、そう思って過ごしてきた」

金田一 「そんなことがあったのか」

狐塚 「殺害方法はあなたの言う通り。金にガメつい竜崎にこの計画を提案したら喜んで呑んだ。怪盗刑事が来る可能性もあったから、その騒動に便乗できるかも、と。計画では、倒れた隙に私が宝石を隠し、持病で体調悪くなつたと病院に運ぶ口実で退場、宝石を移動中に隠して保険金ゲットという寸法。実際は、“計画が変更になつたので、この水を飲んで治つた振りをして”と耳元で囁いて毒入りの水を飲ませたの」

一部始終を聞いていた剣持が狐塚の前に立ちはだかる。

剣持 「狐塚美咲、竜崎英雄殺害容疑で逮捕する！
おい、はじめ……こいつは怪盗刑事ってことでいいのか？」

※ 金田一・美雪「被害者を殺害した犯人を見つける」は達成
(すでに未達成の場合、達成にはならない)。

- ◆ ②が正解→Cへ
- ◆ ②が不正解→Hへ

金田一 「狐塚さんは殺人事件の犯人だが、怪盗刑事は彼女じゃないよ。
怪盗刑事は……そこにいる美雪だ！」

美雪 「え？」

剣持 「な、なにを言つたるんだ。七瀬君が怪盗刑事だなんて……
まさかそんなわけ」

金田一 「美雪との会話に俺は違和感を覚えていた。
そして、決定的だったのは会場が暗転していた時のお前の返事さ。
佐木が撮影していたこの映像……ほら、俺は 15 秒の時点で
話しかけているが、お前が返事をしたのは 25 秒だ。
お前、この 10 秒の間、何をしていたんだ」

美雪 「何だと思う、はじめちゃん？」

金田一 「……暗転した時から会場内を移動していたんだろうな。
もちろんシルクダイヤを盗むために！」

美雪 「ふふふ、まー、おマヌケな刑事さんは放っておいて、
続けましょう金田一君」

剣持 「な、なに？」

美雪 「私は怪盗刑事、美術品の陰に隠れた犯罪を暴くために物を盗む
正義の怪盗！

まずはお礼を言うわ、金田一君。

殺人犯を見つけ出し、怪盗刑事の名に泥を塗らなかつたこと。
お礼にチューでもしてあげようかしら」

金田一 「み、美雪の顔で変なこと言うな！」

美雪 「あら、かわいい。ま、冗談はほどほどにして本題に入りましょうね。
ズバリ、宝石シルクダイヤはどこにあるか?
それがあなたにはわかるのかしら?」

◆ ③が正解→ D へ

◆ ③が不正解→ E へ

金田一 「それは……これから捜す！」

美雪 「あーあ、これじゃ金田一耕助の孫の名も廢るわ」

金田一 「事件発生時は出入りした人間はいない、
そして宝石自体も取り出したり、飲み込んだりすることはできない、
つまり、この会場のどこかにあるはずなんだ！」

美雪 「それじゃ私の勝ちかな？ 楽しかったから良いけど、
次はもうちょっと頑張ってよね！」

金田一 「勝ち負けじゃないだろ……」

美雪 「あ、そうそう。宝石に関しては、過去に色々なルートがあり、
それを巡ったたくさんの事件があったはず。
ちゃんと調べてよね、おマヌケ刑事さん！」

剣持 「ちょ、ちょっと待て、捕えろ !!」

ドロン、と白煙が上がると辺り一面の視界が奪われる。

喧騒の中、視界が回復したころには美雪の姿をしていた怪盗刑事の姿は無かった。

こうして怪盗刑事の宝石盗難から始まったこの殺人事件も幕を閉じた。

狐塚美咲は殺人事件の容疑者として逮捕され、怪盗刑事は逮捕されることなく
この場を立ち去った。

彼女（本当の女性かは不明）が示唆した「シルクダイヤ」の過去のルートに
関しては、警察によって今後徹底的に調べられこととなるだろう。

そして金田一は記者（本当は美雪）が運ばれた病院に向かった。

※金田一「消えた宝石「シルクダイヤ」を見つける」は未達成。

※美雪「消えた宝石「シルクダイヤ」が見つからない」は達成。

金田一 「ああ……それは、この中さ！」

すでに冷めたビュッフェの寸胴鍋の中に突然手を入れて取り出す金田一。
そこには袋に入れられた宝石、シルクダイヤが入っていた。

金田一 「ほら、これがあんたの盗み出すはずの宝石さ」

美雪 「……あらあら、簡単すぎたかしら。

ほとぼりが冷めた時に取り出そうと思っていたけど、
バレちゃったなら仕方ないかな」

金田一 「残念だったな、お目当てのお宝を盗み出すことができなくて！」

美雪 「まー、それはそれで良いわよ。

ちなみに私は寸胴鍋を調べにくくするためレードルを
会場の隅に追いやったんだけど、どうやってそこに置いたか……
これが私からの最後のクエスチョンよ、分かるかしら？」

金田一 「レードルを移動させた方法……」

※金田一「消えた宝石「シルクダイヤ」を見つける」は達成。

※美雪「消えた宝石「シルクダイヤ」が見つからない」は未達成。

◆ 方法がわかった→ F へ

◆ 方法はわからない→ I へ

※方法を美雪のプレイヤーに説明し、判定してもらってください。

- 美雪 「レードルをどうやって会場の隅に置いたか、説明してちょうだい」
- 金田一 「それは……時間差で移動させたんだろう？」
- 美雪 「時間差、ってどういう意味？」
- 金田一 「暗転時にはルートを考えても難しい。
きっとテーブルの下にでも置いておいたんじゃないかな。」
- その後、あんたが料理人に証言を聞きに行ったときにも
細工をしたんだろう。不可能の分割ってことだ」
- 美雪 「全てお見通しってわけね。
はいはい、じゃー、今回は負けで良いわよ、うん。
楽しかったから良いけど、次は負けないからね！」
- 金田一 「勝ち負けじゃないだろ……」
- 美雪 「あ、そうそう。その宝石に関しては、過去に色々なルートがあり、
それを巡ったたくさんの事件があったはず。
ちゃんと調べてよね、おマヌケ刑事さん！」
- 剣持 「ちょ、ちょっと待て、捕えろ !!」

ドロン、と白煙が上がると辺り一面の視界が奪われる。

喧騒の中、視界が回復したころには美雪の姿をしていた怪盗刑事の姿は無かった。

こうして怪盗刑事の宝石盜難から始まったこの殺人事件も幕を閉じた。

狐塚美咲は殺人事件の容疑者として逮捕され、怪盗刑事は逮捕されることなく
この場を立ち去った。

彼女（本当の女性かは不明）が示唆した「シルクダイヤ」の過去のルートに
関しては、警察によって今後徹底的に調べられこととなるだろう。
そして金田一は記者（本当は美雪）が運ばれた病院に向かった。

◆→Jへ

金田一 「犯人は……犯人は……ちょっと待ってね」

剣持 「おいおい、しっかりしてくれよ。

お前の推理発表をみんな待っているんだぞ!」

美雪 「……はじめちゃん? 大丈夫?」

金田一 「……あれば、あーして、こーして……ううん」

佐木 「先輩の面白い顔、ちゃんと撮影しておきますよ。

あー、そうそう独り言の小声ちゃんと録音しますよ」

金田一 「撮影……小声……音声? ……! そうか、わかったぞ!」

美雪 「本当、はじめちゃん? 良かった……」

金田一 「よし、みんな集まってるな……犯人は……」

※金田一・美雪「被害者を殺害した犯人を見つける」は未達成。

◆→Bへ

- 金田一 「(心の中) 狐塚さんが怪盗刑事? いや、それはありえない。
俺の推理通り殺害を行っているとすると、宝石泥棒に関しては
無理なことがたくさんあるんだよ。
暗転中に移動していた人物、トイレで昏睡していた記者、
不自然な食器類.....なんだってんだ!」
- 美雪 「はじめちゃん、どうしたの?
あたし、そろそろ疲れちゃったから帰りたくなったよ?」
- 金田一 「.....ちょ、ちょっと待ってくれ!」
- 剣持 「ほら、七瀬君も帰りたがっているんだ、早く教えてくれ、
変装名人の怪盗刑事は誰なのか。
俺も意識不明の記者の病院に行って、状況を確認したいんだ」
- 金田一 「変装名人.....意識不明の記者?!
そうか、そういうことか.....!!

◆→Cへ

金田一 「(心の中) そんなこと急に言われてもなあ……

暗転中にそのルートには給仕長がいたわけだろ。

寸胴鍋を調べられないためにレードルをどこかに追いやったって
いっても、あの時間中にそこに置くのは無理がある。

そこまでやる時間も無ければルートも無いはずだ」

佐木 「どうしたんですか先輩。七瀬先輩と面白そうな話してますね?」

金田一 「この謎が解ければ全て解決なんだ……」

美雪 「佐木君、はじめちゃんはレードルが移動した謎を解こうとして
いるの、邪魔しちゃダメよ」

佐木 「レードルですか?

僕よく見てないんですけど、あの食器類って会場が明るくなった時
にありましたっけ」

金田一 「暗転した時以外にレードルが移動した……!

そういうことかサンキュー、佐木」

佐木 「え、僕何かしましたか?」

金田一 「怪盗刑事! レードルをどうやって会場の隅に置いたのか、
それを説明してやるよ」

◆→Fへ

個室の病室のベッドで寝ている美雪。

彼女はリハーサルの前のタイミングで怪盗刑事に襲われ入れ替わっていたようだ。美雪には《記者》である楳村洋子のメイクを施し、《記者》は美雪に変装した。そうすることで、怪盗刑事として宝石を盗む隙を作ろうとしたのだろう。金田一は美雪の顔を覗き込む。

美雪 「……ん……」

金田一 「美雪！」

美雪 「……はじめちゃん？ あれ、あたしどうして……」

金田一 「お前は怪盗刑事に気を失わされていて、今まで寝ていたんだよ。
でも気が付いて良かった」

美雪 「そうなんだ。あ、事件はどうなったの？」

金田一 「大丈夫、殺人事件も怪盗刑事も解決した」

美雪 「そっかー。さすがだね、はじめちゃん」

金田一 「ああ、お前のおかげだぞ、美雪！」

美雪 「あたし……？ あたし、何もしていないよね？」

金田一 「お前と会話したことを色々と思い出したおかげで、
怪盗刑事を見つけ出すことができたんだよ。
だから、俺だけの手柄じゃねーってわけ！」

美雪 「そっか、よくわかんないけど、良かったね。
やっぱりはじめちゃんはすごいなあ」

金田一 「美雪……」

美雪 「(心の中) え、なに……顔が近い……」

金田一 「……」

ガチャ

佐木 「七瀬せんぱーい！お見舞いにやってきましたよー！」
剣持 「おう、気が付いているようだな、良かったよ良かった！」
金田一 「……お、おい、お前ら、タイミングを考えろタイミングをー！」
佐木 「あれ先輩、何かえっちなことしようとしてました？」
剣持 「なんだと、おい、逮捕するぞ！」
金田一 「もー、そんなんじゃないってー！」
美雪 「クス。ありがとう、はじめちゃん」

宝石盗難殺人事件・完

以上をもって、本ゲームの終了となります。

お疲れ様でした。あなた達の目標が叶ったか否かなどあるとは思いますが、
ゲームのエンディングに正解はありません。

大事なのは、あなた達だけの物語が生まれたことです。

これ以降の感想戦を自由にお楽しみください。

全ての情報を公開し、各キャラクターシナリオの「目標」を発表し、どんなキャラクターだったかを説明していくのがお勧めです。

■クレジット

原作：天樹征丸

金成陽三郎

漫画：さとうふみや

講談社刊

ゲームデザイン／シナリオ：木皿儀隼一（ワンドロー）

グラフィックデザイン：ヨジー（StudioOZON）

オリジナルイラスト：蒼井圭那（MADAMADA★SaVaN）

DTP：小宮山佳太（ワンドロー）

校正：檜木田正史

全体指揮：クマ（マダミス HOUSE）